

# The Japanese Journal of PHYCOLOGY

## CONTENTS

<b>Anicia Q. Hurtado-Ponce and Isamu Umezaki:</b> Life history of <i>Erythrocladia sub-integra</i> ROSENVIGE (Bangiales, Rhodophyceae) in culture .....	283
<b>Hiroshi Yabu:</b> Meiosis in three species of <i>Laurencia</i> (Ceramiales, Rhodophyta) .....	288
<b>Hiromu Kobayasi, Hideaki Kobayashi and Masahiko Idei:</b> Fine structure and taxonomy of the small and tiny <i>Stephanodiscus</i> (Bacillariophyceae) species in Japan. 3. Co-occurrence of <i>Stephanodiscus minutulus</i> (KÜTZ.) ROUND and <i>S. parvus</i> STOERM. & HÄK. ....	293
<b>Kazuo Okuda and Shun Mizuta:</b> Analysis of cellulose microfibril arrangement patterns in the cell wall of new spherical cells regenerated from <i>Boodlea coacta</i> (Chlorophyceae) .....	301
<b>Nobuyasu Katayama, Yuko Tokunaga and Yasutsugu Yokohama:</b> Effect of growth temperature on photosynthesis-temperature relationship of a tide pool alga <i>Cladophora rudolphiana</i> (Chlorophyceae) .....	312
<b>Kazumasa Imao and Hiroshi Fushimi:</b> Ecology of the eelgrass ( <i>Zostera marina</i> L.), especially environmental factors determining the occurrence of annual eelgrass in Lake Hamana-ko .....	(in Japanese) 320
◆ ◆ ◆	
Note	
<b>Ryozo Seto:</b> Typification of <i>Caloglossa ogasawaraensis</i> OKAMURA (Ceramiales, Rhodophyta) .....	317
◆ ◆ ◆	
Review	
<b>Megumi Okazaki and Kurazo Furuya:</b> Mechanisms in algal calcification ..(in Japanese)	328
◆ ◆ ◆	
Information of international symposium and congress .....	(in Japanese) 300, 327
Book reviews .....	(in Japanese) 311, 319
◆ ◆ ◆	
Announcement .....	(in Japanese) 345
Regulations of the society .....	(in Japanese) 347
Contents of Volume 33	

## 日本藻類学会

日本藻類学会は昭和27年に設立され、藻学に関心をもち、本会の趣旨に賛同する個人及び団体の会員からなる。本会は定期刊行物「藻類」を年4回刊行し、会員に無料で頒布する。普通会員は本年度の年会費7,000円(学生は5,000円)を前納するものとする。団体会員の会費は12,000円、賛助会員の会費は1口20,000円とする。

入会、退会、会費の納入および住所変更等についての通信は 113 東京都文京区弥生 2-4-16「学会センタービル内」日本学会事務センター宛に、原稿の送付は 184 東京都小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学生物学教室内、日本藻類学会編集委員会宛に、また、庶務一般およびバックナンバー等については、305 茨城県新治郡桜村天王台 1-1-1 筑波大学生物科学系内、日本藻類学会宛にされたい。

### The Japanese Society of Phycology

The Japanese Society of Phycology, founded in 1952, is open to all who are interested in any aspect of phycology. Either individuals or organizations may become members of the Society. The Japanese Journal of Phycology (SÔRUI) is published quarterly and distributed to members free of charge. The annual dues (1985) for overseas members are 8,500 Yen (send the remittance to the **Business Center for Academic Societies Japan, 4-16, Yayoi 2-chome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113 Japan**).

Manuscript for publication should be submitted directly to the Editor-in-chief, **Prof. H. Kobayasi, Department of Biology, Tokyo Gakugei University, Nukuikita-machi 4-1-1, Koganei-shi, Tokyo, 184 Japan**. Claims for missing issues should be sent to the **Japanese Society of Phycology, c/o Institute of Biological Sciences, University of Tsukuba, Sakura-mura, Ibaraki-ken, 305 Japan**.

#### 昭和60, 61年度役員

会 長：千原 光雄 (筑波大学)  
庶務幹事：原 慶明 (筑波大学)  
" 井上 勲 (筑波大学)  
会計幹事：加藤 季夫 (筑波大学)  
評 議 員：

有賀 祐勝 (東京水産大学)  
榎本 幸人 (神戸大学)  
堀 輝三 (筑波大学)  
市村 輝宜 (東京大学)  
巖佐 耕三 (大阪大学)  
岩崎 英雄 (三重大学)  
喜田和四郎 (三重大学)  
小林 弘 (東京学芸大学)  
右田 清治 (長崎大学)  
野沢 治治 (鹿児島大学)  
大野 正夫 (高知大学)  
谷口 和也 (東北海区水産研究所)  
月館 潤一 (南西海区水産研究所)  
山田 家正 (小樽商科大学)  
山岸 高旺 (日本大学)  
吉田 忠生 (北海道大学)

#### 編集委員会：

委員 長：小林 弘 (東京学芸大学)  
幹 事：岡崎 恵視 (東京学芸大学)  
実行委員：有賀 祐勝 (東京水産大学)  
" 堀 輝三 (筑波大学)  
" 市村 輝宜 (東京大学)  
委 員：秋山 優 (島根大学)  
" 巖佐 耕三 (大阪大学)  
" 岩崎 英雄 (三重大学)  
" 右田 清治 (長崎大学)  
" 三浦 昭雄 (東京水産大学)  
" 宮地 重遠 (東京大学)  
" 西澤 一俊 (日本大学)  
" 籾 熙 (北海道大学)  
" 吉田 忠生 (北海道大学)

#### Officers for 1985-1986

**President:** Mitsuo CHIHARA (University of Tsukuba)  
**Secretary:** Yoshiaki HARA (University of Tsukuba)  
Isao INOUE (University of Tsukuba)  
**Treasurer:** Sueo KATO (University of Tsukuba)

#### Members of Executive Council:

Yusho ARUGA (Tokyo University of Fisheries)  
Sachito ENOMOTO (Kobe University)  
Terumitsu HORI (University of Tsukuba)  
Terunobu ICHIMURA (University of Tokyo)  
Kozo IWASA (Osaka University)  
Hideo IWASAKI (Mie University)  
Washiro KIDA (Mie University)  
Hiromu KOBAYASI (Tokyo Gakugei University)  
Seiji MIGITA (Nagasaki University)  
Koji NOZAWA (Kagoshima University)  
Masao OHNO (Kochi University)  
Kazuya TANIGUCHI (Tohoku Reg. Fish. Res. Laboratory)  
Jun-ichi TSUKIDATE (Nansei Reg. Fish. Res. Laboratory)  
Iemasa YAMADA (Otaru Univ. of Commerce)  
Takaaki YAMAGISHI (Nihon University)  
Tadao YOSHIDA (Hokkaido University)

#### Editorial Board:

Hiromu KOBAYASI (Tokyo Gakugei Univ.), Editor-in-chief  
Megumi OKAZAKI (Tokyo Gakugei Univ.), Secretary  
Yusho ARUGA (Tokyo Univ. of Fisheries), Associate editor  
Terumitsu HORI (University of Tsukuba), Associate editor  
Terunobu ICHIMURA (University of Tokyo), Associate editor  
Masaru AKIYAMA (Shimane University)  
Kozo IWASA (Osaka University)  
Hideo IWASAKI (Mie University)  
Seiji MIGITA (Nagasaki University)  
Akio MIURA (Tokyo Univ. of Fisheries)  
Shigetoh MIYACHI (University of Tokyo)  
Kazutosi NISIZAWA (Nihon University)  
Hiroshi YABU (Hokkaido University)  
Tadao YOSHIDA (Hokkaido University)

## ー日本藻類学会ワークショップ開催についてー

日本藻類学会会則には、学会の目的として、藻学の進歩普及を図り、併せて会員相互の連絡並に親睦を図ること(第2条)、そのために藻類に関する研究会、講習会、採集会等の開催(第3条2項)を行うことがうたわれています。しかし、現在、大会、講演会、シンポジウムおよび懇親会以外にはこのような活動は行われておらず、所属機関の異なる会員が連れだって野外に出たり、実験・観察を行う機会は殆どないと申せま。現在日本の藻学の分野には多くの若い研究者が育ちつつあり、このような人達の間から、大会以外に、異なる機関に所属し、異なる研究分野をもつ会員が一堂に会し、野外や実験室で採集や観察を行う機会もてないものかという声が続々とあります。近年、藻類研究の技術は飛躍的に進歩し、また対象とする藻群や研究分野も細分され多岐にわたっています。このような状況を考えますとき、特に講習会・採集会の実施は、藻類研究の情報や技術の交換に加えて、会員の親睦を

深めることになり、今後の藻学の発展のために誠に有意義なことと思います。

このような観点から、事務局では、来春の第10回大会を機に日本藻類学会主催のワークショップ開催を企画しました。ワークショップには、研究会・講習会・採集会あるいはそれらを複合した形などが考えられます。たとえば海藻の採集と分類同定法、珪藻の試料処理と分類同定法、藻類の分離・培養法、藻類の電子顕微鏡試料作製・観察法、蛍光顕微鏡の藻類研究への応用・観察法、教材としての藻類の利用法などがあると思います。今回は下記のように、筑波地区に点在する大小の湖沼における淡水藻の採集と実験室における観察と分類・同定のためのワークショップを企画いたしました。今後は会員諸氏の希望を募り、それに沿ったテーマでワークショップを実施したらと考えます。学会事務局あて、ご意見、ご希望をお寄せ下さい。

## ー日本藻類学会ワークショップのお知らせー

下記の要領によりワークショップを開催します。参加者を募集します。

- ①テーマ 淡水藻類の採集・分類同定法
- ②期日 昭和61年3月31日(月)午後4時(第10回大会終了後)～4月2日(水)正午
- ③講師 秋山優(島根大)、高橋永治(神戸大)、山岸高旺(日本大)、渡辺真之(科博)
- ④日程と内容(予定)  
3月31日(月)、大会終了後集合、淡水藻の分類の概要の講義と採集時の注意、4月1日(火)、9時～12時、筑波地区の湖沼での淡水糸状藻と植物プランクトンの採集、実地指導、13時～17時、室内観察・分類同定の講義、4月2日(水)、室内観察のつづきと同定法・培養法の実地指導、12時解散。
- ⑤会場 筑波大学(詳細は大会会期中に掲示します)

⑥参加費 3,000円。採集交通費、資料作製費、消耗品費その他にあてます。

⑦宿泊 p.346を参考にして各自予約して下さい。

⑧定員・参加資格など

定員は30名。参加者の年齢・研究歴等は問いませんが、藻類の研究を志す学部、大学院の方々の参加を歓迎します。

⑨申し込み 電話で参加予約したうえで、参加費を現金書留で下記へお送り下さい。

〒305 茨城県新治郡桜村天王台1の1の1  
筑波大学生物科学系  
原慶明または井上勲  
TEL. 0298-53-4533

⑩申込み・参加費納入締切り

申込みは61年2月20日まで、参加費の納入は3月10日とします。

## 日本藻類学会第10回大会のお知らせ

昭和61年度日本藻類学会第10回大会を下記の要領で開催します。藻類に関係のあるあらゆる分野の研究についての発表を広く歓迎します。所属機関長への出張要請等の文書などご入用の方はご遠慮なく大会準備委員会まで宛先を明記してお申し込み下さい。

今回は日本藻類学会が独自に大会を開催して10年目にあたります。これを記念して例年の口頭・展示発表による一般講演に加えて、カリフォルニア大学（パークレー）の P.C. SILVA 博士による特別講演を予定しています。また大会終了後に日本藻類学会ワークショップとして淡水藻類の採集と同定の講習会を企画しています（裏面参照）。奮ってご参加下さい。

- (1) 期 日 昭和61年3月30日(日)～3月31日(月)
- (2) 会 場 筑波大学〔国鉄常盤線土浦駅下車、関東鉄道バス②番より「筑波大中央」もしくは「高エネルギー研」行で筑波大中央下車（40分、料金490円）または荒川沖駅下車、関東鉄道バス「筑波大中央」行で終点下車（30分、料金450円）、徒歩3分。〕自家用車の場合は大学中央守衛所で登録ののち所定の場所に駐車して下さい。
- (3) 研究発表 発表形式は口頭発表と展示発表とします。口頭発表は1演題につき討論を含め15分を予定しています。展示発表は原則として大会期間中とし、演者はポスターの前で決められた時間に説明と質疑応答を行うことになります。
- (4) 参加申込み 講演の有無にかかわらず、大会に参加を希望される方は、同封の振替用紙にてお申し込み下さい。参加費は2,000円です。懇親会（3月30日夜開催）に出席希望の方はさらに会費2,000円を添えてお送り下さい。
- (5) 講演申込み 講演ご希望の方は、氏名（共同の場合は演者に◎印）、所属、題名、要旨（A4 400字詰原稿用紙使用、題名共に600字以内）を添えて大会準備委員会までお申し込み下さい。

本大会では発表形式が2通りになっています。ご希望の発表形式を、「口頭」あるいは「展示」と、要旨1枚目の原稿用紙の右上欄外に朱記して下さい。記入のない場合は大会本部で振り分けさせていただきます。

- (6) 発表方法 口頭発表の場合：図・表はすべて35mmスライドに限り、スライド枠には、下図のように講演者氏名、講演番号（大会プログラムに

記されているもの）、スライド総枚数、映写順序、上辺マークを記入して下さい。同一の図、表をくり返し映写する場合は、それに見合う枚数をご用意下さい。

展示発表の場合：大会本部では1演題につき幅180cm、高さ90cm（市販の模造紙2枚分の大きさ）の展示板を用意します。その他の展示用具は各自で準備して下さい。ポスターの貼付にはセロハンテープまたはマグネット紙を使用して下さい（画鋲は使用できません）。デザインや展示方法は自由ですが、上記の大きさに合わせたポスターを前もって作成し、ご持参下さい。なおポスター作成にあたっては以下の点にご留意下さい。i) 表題は高さ5cm以上の大きさの文字を使用する、ii) 説明文は高さ1cm以上の文字を使用し、文章は必要最小限にとどめ、図、表、写真等との対応が明瞭になるよう配慮する、iii) 演者の氏名、所属を明記し、演者の顔写真（キャビネ判大）を貼付するのが望ましい。ポスターの貼付はできるだけ3月29日（大会前日）の午後3時から6時の間にすませるようお願いいたします。やむを得ず大会当日に貼付の場合は、30日午前9時までにはすませるようにして下さい。

- (7) 宿泊案内 宿泊施設は p. 346 のリストを参照の上、各自でお申し込み下さい。
- (8) 大会参加申込み・講演要旨締切り 昭和57年1月20日
- (9) 申込先・要旨送り先  
〒305 茨城県新治郡桜村天王台1の1の1  
筑波大学生物科学系内 日本藻類学会第10回春季大会準備委員会。振替 宇都宮 1-33412  
電話 0298-53-4533

